



教育としての部活動



近年、学校教員の部活動の指導についてメディアで取り上げられることが多くなり、生徒の学校生活に占める拘束時間の長さなどから「ブラック部活」という言葉を聞くことも珍しくなくなりました。また、部活動顧問教員の労働環境についても問題視されています。なぜ、今になって「ブラック部活」と呼ばれるようになったのか。そして、部活動の教育としての意義とは何か。今回は、社会動向の変遷から部活動の在り方について探っていきます。



中学校学習指導要領による部活動の定義・解釈

中学校学習指導要領総則より

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説より

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動について

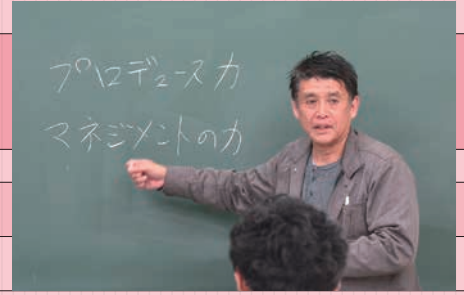
- ① スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成等に資するものであるとの意義があること、
- ② 部活動は、教育課程において学習したことなども踏まえ、自らの適性や興味・関心等をより深く追求していく機会であることから、各教科等の目標及び内容との関係にも配慮しつつ、生徒自身が教育課程において学習する内容について改めてその大切さを認識するよう促すなど、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること、
- ③ 一定規模の地域単位で運営を支える体制を構築していくことが長期的には不可欠であることから、設置者等と連携しながら、学校や地域の実態に応じ、教員の勤務負担軽減の観点も考慮しつつ、部活動指導員等のスポーツや文化及び科学等にわたる指導者や地域の人々の協力、体育館や公民館などの社会教育施設や地域のスポーツクラブといった社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うこと。

兵教大の授業科目

学部「部活動の指導と運営」

■ 担当教員 / 生活・健康・情報系教育コース

森田啓之准教授・有山篤利准教授



■ 科目区分 / 教職キャリア科目 ■ 履修年次 / 学部3・4年 ■ 受講人数 / 12人

■ 授業の概要

学校教育における部活動について、学習指導要領を踏まえた位置付けや意義・役割について学び、部活動が抱えている課題、これからの部活動の在り方などについて考えます。

■ 学びのポイント

- ▶ 学校における部活動の位置付けについて理解します。
- ▶ 部活動の果たしてきた役割と意義、抱えている課題について理解します。
- ▶ これからの部活動の在り方について、冷静な認識を持つことができます。

受講生の感想



しもだともみ
下田朋実さん
学校教育学部
学校教育系コース4年

小 学校教員を志望しているので、将来、部活動に直接関わる機会はあまりないと思いますが、部活動の運営は学級経営や小学校のクラブ活動に応用できそうだと考え、授業を受けることにしました。講義の中で部活動の意義について学び、知識をつけてからグループワークや話し合いをするので、他の履修生と価値観の違いを確認することができました。



ささのさちよ
笹野祥代さん
学校教育学部
学校教育系コース4年

中 学校と高校の保健体育の教員免許状取得を目指しているため、部活動について無関心ではられないと思います。履修しました。この授業の魅力は履修生の学修意欲が高いので、話し合いが盛り上がる場所です。また、履修生の多くが部活動やクラブに所属した経験があり、個々の経験を共有できるので、部活動に対する学びが深まりました。

授業 / のぞき見

現職教員学生から体験談を聞く機会も

12月12日の授業では、修士課程生活・健康・情報系教育コースの1年生で現職の中学校教員でもある伊藤功二さんが教壇に立ち、外部指導員との関わりや競技経験のないスポーツの顧問になったことなど、自身のさまざまな経験を披露しました。学生たちからは、「試合に出場するメンバーをどのように決めているのですか」「男子生徒・女子生徒それぞれの関わり方で気を付けていることは」など率直な疑問や質問が次々にぶつけられ、次第に学生自身の経験談を交えた活発な議論に展開しました。

授業を担当する有山准教授は、「これから部活動の顧問には、競技の指導力だけでなく、教育としてどのような部活動をつくり上げ、どのように周りの協力を得ていくかといったプロデュース力とマネジメント力が必要だと思います。真正面から取り組むととてもやりがいがあるので、ぜひ頑張ってほしいです」と話しています。



教員の部活動へのさまざまな声



部活動の顧問は
やりがいがある!

時間の許す限り活動を行い、
生徒を勝たせてあげたい!



土日も試合の引率があり
家族との時間が持てない…

部活動と授業準備の両立が大変!
毎日残業になってしまう…

「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の概要

部活動顧問の長時間労働、指導の専門性や生徒に課される勝つことのみを目的とした過度な練習…。こうした問題を背景として、平成30(2018)年3月、スポーツ庁によって生徒がスポーツに親しめる環境をつくるためのガイドラインが策定されました。

学校における体制の見直しと、競技団体等の協力

- 活動計画、方針を策定・公表
- 運動部活動の数の見直し
- 部活動指導員の積極的な任用

休養日の設定等、医・科学に基づく活動

- 生徒の心身の健康管理、事故防止、体罰・ハラスメントの根絶
- 休養日や活動時間の設定・公表

4つのポイント

少子化の中での子どものニーズを踏まえた環境整備

- 多様な目的の運動部の設置
- 複数校合同部活動等の推進
- 地域との連携

大会規定の見直し

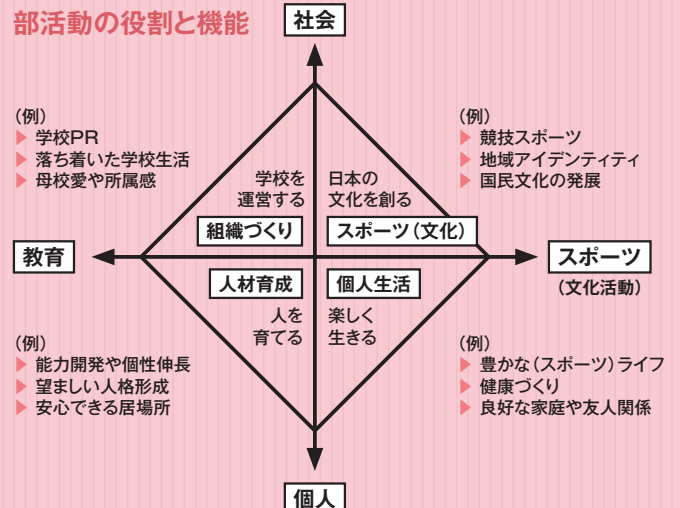
- 参加単位の見直し
- 各学校の運動部が参加できる大会の上限の設定
- 大会日程の見直し

有山先生の解説

外 部指導者の任用や休養日の設定、大会規定の見直しなどが明記され、部活動が競技スポーツを担うことの限界が示されたことについては評価されるべきと考えます。しかし、部活動＝競技スポーツをすることではありません。右図のように、部活動は教育として多様な役割や機能を担っています。今回のガイドラインは、部活動が競技スポーツを担う限界が示されているのですが、他の大切な役割の充実には具体的に言及されていません。私たち部活動に関わる者には、この問題を単に競技スポーツに関する負担の軽減で片付けることなく、子どもの生活や未来を豊かにする教育として、どう再編充実していくのが問われていると思います。



部活動の役割と機能



部活動も時代の価値観に 合わせた変化を

運

動部活動は矛盾の多い教育活動です。残業が

給料に反映されないという労働としての矛盾や、教育活動なのに教育課程外という制度上の矛盾は言うまでもなく、本来子どもで自主的で自由な活動であるにもかかわらず、教育という名の統制力が働くという特質に関する矛盾。そして、教育という看板を掲げながら、実態は競技スポーツであり、子どもの「成長」よりも大会での「勝利」が賞賛されるという評価の矛盾などです。今、これらの矛盾が一気に表面化し、「部活動のブラック化」などと騒がれています。

しかし、誤ってはならないのは、運動部そのものがブラックになったわけではないということです。変わったのは、運動

部を取り巻く時代です。運動部は「変わった」からではなく、「変わっていない」から問題なのです。わが国では、戦後から

高度経済成長を経てバブルまで、一貫して資本主義を謳歌してきました。汗水垂らして残業や休日出勤をこなし、マイホームや高級車などより良い「モノ」を手に入れた人をたたえた成果主義の時代です。それは、顧問の熱血指導の下、血と汗と涙を流しながら、賞状やメダルという「モノ」の獲得を競う運動部活動と全くの相似形でした。つまり、運動部活動は、時代を担う人材を輩出する教育活動として広く国民に支持されてきたのです。

ところが今、その価値観は大きく揺らいでいます。それはなぜか。端的に言えば、産業が

発展し「モノ」が世にあふれるようになったからです。「モノ」が潤沢にある今、われわれの良

い「モノ」への憧れは鈍化しています。なぜなら、そこそこの「モノ」が安価で簡単に手に入るからです。むしろ今、われわれが欲するのは「モノ」そのものではなく、「モノ」を通して得られる充実感や満足感、やりがいなど「ココロ」の領域ではないでしょうか。より良い「モノ」の獲得を重視した時代は終えんを迎えつつあります。豊かな「ココロ」を希求する時代へと変貌しつつある今、運動部活動はいまだ旧来の価値観で設計されています。まさに、時代の価値観に合わせた変化を遂げていないところに、運動部活動の根本的な課題があると私は考えています。

昔と今の価値観の変遷

昔

成果重視の時代
(より良いモノが大事!)

「時代のキーワード」

敗戦、高度経済成長、
東京オリンピック、バブル、
偏差値教育



今

プロセス重視の時代
(豊かなココロが大事!)

「時代のキーワード」

ゆとり、働き方改革、
主体的で対話的で深い学び、
アクティブラーニング



生活・健康・情報系教育コース
ありやま あつとし

有山篤利 准教授

研究分野 / 武道論(文化論・教育法)、
体育科教育、運動部活動